

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520297

研究課題名(和文)十九世紀末から世紀転換期の女性医師著述家研究 文学・医学・フェミニズム

研究課題名(英文)A Study of Medical Women's Writing and Feminism, 1880-1910

## 研究代表者

市川 千恵子 (Ichikawa, Chieko)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号：10372822

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、女性医師著述家による小説、健康指南書、性道徳論、女性論をジャンル横断的に検証し、19世紀の男性優位の医学の分野に参入し、女性の身体を医学的言説の「受け手」という位置から解放しようとした営為を考察した。女性医師たちの著作物には、同性の健康の守護者としての使命感と、時代の優生学思想への傾倒が見出される。女性の心身の健康が世紀転換期に特別な意味を帯びた結果である。彼女たちの書く行為には、自己の声と身体の回復が希求される一方で、性道徳規範の強化と母性神話の再創造という視座も存在し、女性性の修正は国家・帝国をめぐる政治的葛藤のなかに収斂されていくのである。

研究成果の概要(英文)：This research project explores body politics in late nineteenth-century England by focusing works written by female doctors and authors who entered into male-dominated domains. It examines their novels and manuals on health management and sexual morality, and analyses the contemporary debate between feminism and anti-feminism. The writing of the time indicates a strong sense of duty as guardians of women's bodies, along with concerns for the degeneration of the race, stemming from oppression of women's reproductive functions at the turn of the century. While the writings by female doctors and authors sought to demonstrate the significance of women's physical-self-determination, they also contributed to the recreation of maternal myths and re-emphasised sexual morality. This set of debates in social and imaginative discourse posed an intricate question concerning the redefinition of womanhood, around which national and imperial political conflict revolved.

研究分野：イギリス文学

キーワード：アラベラ・キニーリー 女性医師 ボディ・ポリティクス フェミニズム アンチ・フェミニズム

### 1. 研究開始当初の背景

女性医師による著作は、女性が性について語る契機をもたらし、文学作品における女性医師には女性の身体の守護者としての使命が見出され、そのことが物語の展開上でも重要な役割を果たす。健康、衛生問題、性道德、母性をめぐる女性医師の主張は、ヴィクトリア朝後期の文学と文化研究のための有力なテキストを提供することになるのである。

### 2. 研究の目的

19世紀末の女性医師著述家による女性の生と性の選択の文学的表象を分析の中心とし、女性医師たちが執筆活動を通して、医学的見地に基づく女性の身体と性への新たな言説を発信することにより、いかに時代の女性像に挑み、その修正に寄与したかを検証することが本研究課題の目的である。

### 3. 研究の方法

まず女性医師著述家、マーガレット・トッド、アラベラ・キニーリー、メアリ・シャリーブのジャンル横断的な著作を読解し、テキスト分析を行った。さらに、時代の科学・医学的言説、特に優生学思想と女性の身体の関係、フェミニズム、反フェミニズムの両陣営の議論から考察した。国内で入手不可能な文献については、年に一度の渡英により、British Library、Wellcome Library、Women's Libraryにおいて資料調査を進めた。また、研究の過程において得られた成果は、所属する学会において研究発表を行った。

### 4. 研究成果

本研究課題によって得られた成果は以下の通りである。

1) 男性優位の領域である医学界に参入する際に、女性医師は自己の立ち位置を確立するための戦略として、同性と弱者の健康の守護者としての使命を強調した。しかし、アラベラ・キニーリーによるフィクションとノンフィクションにおいては、世紀末の退化をめぐ

る懸念による優生学への傾倒から、女性身体の再生産機能が過度に強調される。キニーリーの *Dr Janet of Harley Street* (1893)では、女性の職業機会の拡大と家庭領域への囲い込みという矛盾する様相が見出された。

2) キニーリーが *Nineteenth Century* 誌に寄稿した女性による過度な身体運動への反対論 ('Woman as an Athlete', 1899)は、スウェーデン式運動の専門家である Eugene Sandow や、急進的なフェミニスト活動家として有名な Laura Ormiston Chant などから様々な反論をもたらした。また、ヒロインとして女性のジム・インストラクターが登場する小説 (George Paston, *The Career of Candida*, 1897)を検証した結果、世紀末のイギリスにおいて、スポーツを通して女性が自らの身体を把握し、管理することは自律的主体獲得の重要な一要素であったことが判明した。キニーリーの主張に反し、女子教育においても、初等教育から高等教育に至るまで、カリキュラムのなかに身体活動が採用され、健康な女性の身体という概念が重要性を帯びてくる。一方で、この現象は優生学への傾倒という時代を反映している面も否定できず、「女性らしい」身体の維持と健康という複雑な様相が見出される。

3) 19世紀後半は医学の進歩、社会生活の向上などから、寿命が延び、文学にも老齢の男女が登場するようになる。キニーリーは長編小説 *Dr Janet of Harley Street* と短編 'A Beautiful Vampire' (1896)において、それぞれに貴族の老齢の男女を登場させ、ゴシックの要素と優生学思想を文学作品に融合させている。とりわけ興味深いのは、加齢が世紀末の退化と退廃の一現象として表象されていることである。キニーリーの著作は、若い身体への執着を過剰に攻撃する一方で、若さに最大の価値を置く時代の潮流と、老いという新しい課題に直面した19世紀の人々の動揺を描き出す。老齢男女の「若さと美しい身体」

に対する執着には、現代まで根強く続く老い、身体、セクシュアリティをめぐる個人の意識と文化の一端を確認することができる。一方、メアリ・シャリーブが 20 世紀初頭に女性の各年代における身体の変化について論じた *The Seven Ages of Woman: A Consideration of the Successive Phases of Woman's Life* (1915) は、女性の老いに心の成熟という価値を示唆する。19 世紀末の文化的葛藤のなかに現代社会のアンチ・エイジングをめぐる消費文化の前兆を見出すことができた。

4) イザベラ・バードの日本旅行記(特に東北地方と北海道の部分)を検証し、19 世紀後半のイギリス女性の「たしなみ」としての医学と衛生の基礎知識は、外国での自身の健康の維持のみならず、地元の人との接触にも寄与したことが確認できた。

5) 女性医師に焦点を置いていたボディ・ポリティクスというテーマを異なる視点から再検証するために、男性医師で思想家の James Hinton(1822-1875)の著作研究を行った結果、時代の医学的言説における女性の身体の管理と消費という欲望を読み取ることができた。さらに Hinton から影響を受けたとされるフェミニスト活動家・作家の Jane Ellice Hopkins(1836-1904)の文学作品と社会浄化運動を検証した。特に、ホブキンズの長編小説 *Rose Tanquard* (1876)における医師を目指しながらも挫折するヒロイン像、恋人の医師から受ける性的暴力と欲望の目覚めという表象は、著者の性道徳強化運動の枠組みを超えて、女性の身体と性的欲望を描き出している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Ichikawa, Chieko, 'A Body Politic of Women's Own: Josephine Butler, Social Purity, and National Identity', *Victorian Review* (John Hopkins UP, 近刊), 査読有

Ichikawa, Chieko, 'Jane Eyre's Daughters: The Feminist Missions of Mary Carpenter and Josephine Butler in India', *Women's History Review* 23.2 (Routledge, 2014): 220-38, 査読有

〔学会発表〕(計 9 件)

市川千恵子, 「孤児のヒロインの物語が描く家族 『ジェイン・エア』と『ローズ・タークランド』、日本ブロンテ協会 30 周年記念大会、2015 年 10 月 17 日、立正大学(東京都・品川区)

Ichikawa, Chieko, 'The Aged Body and Sexuality in Arabella Kenealy's Works', the 16th Annual Conference of the British Association for Victorian Studies: Victorian Age(s), 2015 年 8 月 28 日, the Leeds Trinity University (英国・リーズ)

市川千恵子, 「ヴィクトリア朝の『牧師館の娘』を考える Midori Yamaguchi, *Daughters of the Anglican Clergy: Religion, Gender and Identity in Victorian England* をめぐって」(文学の視点からの論点開示) 第 24 回イギリス女性史研究会、2015 年 6 月 13 日、甲南大学ネットワークキャンパス東京(東京都・千代田区)

Ichikawa, Chieko, 'Arabella Kenealy and the Management of Women's Health', the 15th Annual Conference of the British Association for Victorian Studies: Victorian Sustainability, 2014 年 9 月 4 日, the University of Kent (英国・ケント)

Ichikawa, Chieko, 'Josephine Butler and Body Politics in Late Nineteenth-Century England', The 8th Joint Seminar on Love, Vulnerability and Victimology, 2014 年 2 月 9 日、常磐大学国際被害者学研究所(茨城県・水戸市)

市川千恵子, 「世紀末の文学表象における女性と仕事 女たちの絆のゆくえ」, 英米文学部門シンポジウム「Work と 20

世紀転換期の英米文学』、日本英文学会  
関東支部 2013 年度秋季大会、2013 年 11  
月 2 日、日本女子大学(東京都・文京区)  
市川千恵子、「暴力、欲望、感傷の交錯  
マーガレット・ハークネスのスラム・  
ロマンス』、シンポジウム「イースト・  
エンドへの眼差し ディケンズから世  
紀末へ』、ディケンズ・フェロウシップ  
日本支部平成 25 年度秋季総会、2013 年  
10 月 19 日、西南学院大学(福岡県・福  
岡市)

Ichikawa, Chieko, 'Whirlwind Romance  
between the West and the East: Isabella  
Bird's *Unbeaten Tracks in Japan* and  
Kyoko Nakajima's *Ito's Love*', NAVSA,  
BAVS, AVSA Joint Conference: The Global  
and the Local, 2013 年 6 月 5 日, Ca' Foscari  
University of Venice(イタリア・ヴェニス)

〔図書〕(計 2 件)

市川千恵子、多比羅真理子編、開文社、  
『エリザベス・ギヤスケル中・短編小事  
典』、2016 年、pp. 7-10  
市川千恵子、岩上はる子・惣谷美智子編、  
ミネルヴァ書房、『ブロンテ姉妹と 15 人  
の男たちの肖像 作家をめぐる人間  
ドラマ』、2015 年、pp. 195-218

6. 研究組織

(1) 研究代表者

市川 千恵子 (ICHIKAWA CHIEKO)  
茨城大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10372822

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し